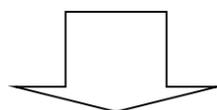


令和4年度授業改善推進プラン

教科 [数学] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。問題を解くために必要な時間が生徒によって大きく異なる。 基本的な内容の計算問題は多くの生徒が理解しているが、四則計算や指数を含む計算問題は式が正しく読み取れず課題がある生徒がいる。 発展的な内容の問題に取り組み、身に付けた知識を利用して解き進めることができる生徒がいる。しかし、初めて取り組む問題については、思考が論理的に発展するのではなく、飛躍してしまうこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。 多くの生徒が計算や連立方程式の問題の途中式を丁寧に書いて、答えを導くことができている。一方で、基礎の定着が不十分で式変形に課題を抱える生徒もいる。 発展的な内容の問題に取り組み、自分がどのように考えたかを説明できる生徒がいる。一方で、分からない問題はすぐ手が止まってしまう生徒や、解くことはできていても、論理を説明できない生徒も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。 基本的な計算問題には丁寧に取り組み正確に答えを導ける生徒が多いが、反復練習をしても定着の難しい生徒がいる。 応用問題に対しては、解法を理解している問題は正答率が高い一方で、初めて取り組む課題には知識を応用させることに難しさを感じている生徒が多い。 主体的に学習する生徒が少しずつだが増えている。レポートの内容も充実してきた。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 用語や要点を整理するとともに、知識を定着させる問題を用意する必要がある。 例題を丁寧に説明するとともに、途中式も細かく書き、思考の順序を明確にする板書を必要とする必要がある。 問題演習の解説に力を入れ、考え方の理解を図る時間を今後も充実させる。 発展的な内容の課題を扱うときは、じっくり取り組めるように時間を設け、解法を扱う時間では、自分の意見をもって解法の解説に臨めるようにする。 ICTを効果的に活用する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題だけでなく、間違いやすい類似問題も取り上げるとともに、その問題の解説をより丁寧にを行う。 問題演習の時間をできるだけ多く作り、机間指導を行い、苦手な生徒への個別指導の時間を確保していく。 問題が早く解けた生徒には、発展的な問題に触れる機会を作り、思考力を身に付けさせる。 習熟度別少人数授業の特性を生かし、思考力が必要な問題を提示し、解決方法を議論させる。 定期考査を踏まえて、学習内容を各自がどの程度理解を深めていて、自分の言葉で表現できるかを、記述式テストを実施して評価する。 ICTを利用した家庭学習の充実を図るために、授業内でeライブラリの問題も解いておくように指導する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算方法、式変形の知識の定着を図る必要がある。机間指導を充実させ、つまづいている生徒を早期に発見し、対応を図る必要がある。 応用問題を扱う際には、解を得るために必要な計算を板書するだけでなく、なぜその計算を行ったのか理解できるように板書を行う必要がある。 他者の解法と比較し、自身の解法をよりよいものにする時間を設ける必要がある。より簡潔に解決に至るためには、何を考える必要があるのか確認させる。 提出課題の内容の充実を図る必要がある。 ICTを効果的に活用する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎コースにおいては、基本の理解・定着を徹底し、繰り返し演習をさせていく。 標準コースにおいては、基本演習をするだけでなく、答えを出すだけでなく、その途中経過を意識させ思考過程も解答させる。また、応用問題を多めに扱うようにする。 文章問題から式を作る際に、図や表を用いているいろいろな見方や考え方があることに気付かせる。また、見方によって立つ式が異なることを理解させる。 学習した内容をどの程度、正確に自分の言葉で表現できるかを、記述式テストを実施して評価する。 問題集等において、分からない問題を、答えを写して終わりにするのではなく、なぜその解答が生まれるのかを考えさせ、似た問題が出たときに解けるようにすることを指導する。 ICTを利用した家庭学習の充実を図るために、授業内でeライブラリの問題も解いておくように指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎の定着を図るために、机間指導の充実を図る必要がある。基礎を授業内で扱っている段階で、定着度を確かめるとともに、早期に誤った認識を修正し、正しい知識の定着を目指す。 初めて見る問題の思考過程の確認が必要である。「なぜその公式を利用しようと考えたのか」を明らかにすることで、論理的思考力の育成を図る必要がある。 互いの解法を比較し合い、よりよい解法を生み出す習慣を確立する必要がある。解が得られることだけに重点を置かず、より簡単に解を得るにはどうしたらよいのか考える時間を設ける。 ICTを効果的に活用する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式を書くように指導し、解答の間違いを自分で見付けられるようにする。 生徒同士で解法の説明を互いに伝え合う活動を行い、思考過程を言語化するとともに、他者に伝えることで知識の定着とよりよい解法を生み出す場を設ける。 学習した関連問題を教科書やタブレットを利用して復習するように指導する。 基礎コースでは、計算など基本の定着を目標とし、既習内容の確認を行いながら反復練習の機会を設ける。 標準コースでは、基本的な内容を利用できるようにすることを目標とし、発展的な内容の問題を解く機会を設ける。 課題を提示し、各自がどの程度理解し表現できるかをレポート課題として行い、評価する。また、発展的な内容を含めることで、よりよい解法を探る習慣を身に付けさせる。 ICTを利用した家庭学習の充実を図るために、授業内でeライブラリの問題も解いておくように指導する。